④医療貢献 | 長崎県 | 西九州自動車道佐々佐世保道路（ささ　させぼ） | 平成23年9月13日開通

「命の道路」として医療活動に貢献　～搬送時間短縮・搬送中の揺れ軽減～

佐々佐世保道路：救急車走行の様子
（相浦中里IC～佐世保中央IC）

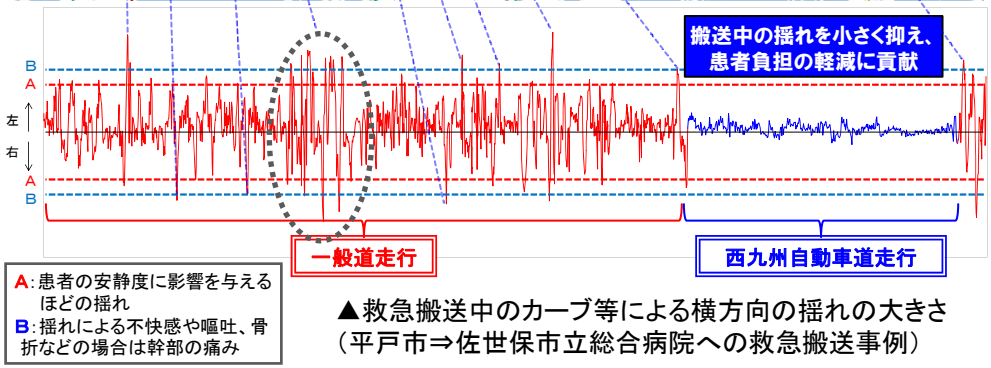
・長崎県県北地域では、地域の病院では十分な治療を受けられない患者を佐世保市中心部に救急搬送しており、**佐々佐世保道路が利用され、命の道路として医療活動に貢献**

・平戸市⇒佐世保市中心部への搬送については、全ての救急搬送について佐々佐世保道路が利用され、**開通以前に比べて、平均搬送時間は約7分短縮**

・佐々佐世保道路の区間では一般道に比べて、**救急搬送中の揺れを小さく抑えることができ、患者の負担軽減**につながっている。

平戸市から佐世保市中心部への救急搬送では**ほぼ全ての搬送で西九州自動車道を利用**しています。［平戸市消防本部消防署長］

▲平戸市から佐世保市立総合病院までのアクセスルート



A：患者の安静度に影響を与えるほどの揺れ
B：揺れによる不快感や嘔吐、骨折などの場合は幹部の痛み

▲救急搬送中のカーブ等による横方向の揺れの大きさ
（平戸市⇒佐世保市立総合病院への救急搬送事例）

救急活動に貢献

西九州道　佐々ＩＣ開通から５ヵ月

一般道の混雑も緩和

国交省が整備効果発表

国土交通省長崎河川国道事務所は6日、昨年9月に開通した西九州自動車道の佐々インターチェンジ（ＩＣ）―相浦中里ＩＣ間（4㌔）の整備効果を発表。一般道の渋滞緩和に加え、重症患者の搬送頻度が高まるなど救急救命活動での貢献度が高いと分析している。

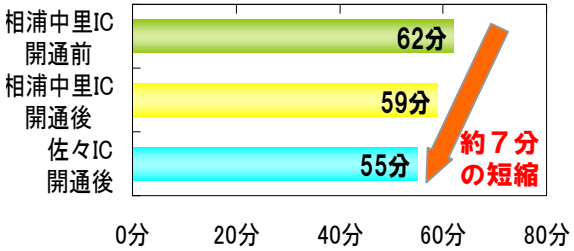
同事務所によると、両ＩＣ間の所要時間は一般道路利用時より約9分、佐々ＩＣ―佐世保中央ＩＣ間は約17分短縮された。平戸市から佐世保市に重症患者を救急搬送した件数は、佐々ＩＣ―相浦中里ＩＣ間開通後の昨年9月14日から12月末までに30件で、平均3・6日に1回。開通前は平均4・3日に1回で、利用頻度が高まった。

平戸市消防本部によると、同市外への救急搬送先のうち過半数は、がんや脳卒中など高度な専門医療施設が集まる佐世保市内。搬送時間に加えて帰署時間も短縮され、次の出動の備えが迅速に取られるようになったという。

また、佐々ＩＣ―相浦中里ＩＣ間に並行する一般道の交通量は約4割減少。周辺事業所の従業員ら300人から集めたアンケートでは、76％が道路混雑が緩和したと回答。バス運転手44人への調査では80％が定刻遅れが減ったと答えた。（中山雄一）

佐世保中央ＩＣ出口を走行する救急車

佐世保市矢岳町



▲平戸市から佐世保市立総合病院への平均搬送時間
（平戸市消防本部調べ）

◀長崎新聞平成24年2月7日朝刊16面

心臓の病で急に倒れて佐世保市中心部の病院に搬送された方に聞いた話ですが、救急搬送によって無事助かったものの『**あと5分遅れていたら難しい状況だった。**』と先生から説明を受けたようで、西九州自動車道は『**本当に命の道路です。**』と大変感謝されていました。［平戸市自治連合協議会の方の談話］

救急の場面では、少しでも早く治療を始めることが重要になります。しかし、**揺れが大きくなると、心臓や脳に負担**がかかることにもなります。**走行しやすい道路が出来ることは、医療にとっても大変良いことです。**［長崎医療センター救急救命センター長］